シリーズ

こんな会社が

キーワードは 乗・効・超・台

トヨタやセブンだけが勝ち組ではない

◉ROEと1株利益増加率の比較

注：数値は直近決算期の連結ベース、ROEは株主資本利益率、西松屋チェーンは連結未発表のため単独、クレックスの増加率も単独

今なぜ強い

トヨタ自動車やソニーなど一握りの会社だけが「勝ち組」だ、と思っていないだろうか。e革命は、NTTドコモやソフトバンクのような情報通信関連企業の専売特許だ、とも。

実は、それは大いなる誤解である。例えば構造不況の代表のような造船業界にすら、60年間赤字と無縁の高収益会社がある。華やかなe革命の裏には規模は小さくとも「陰の主役」がいて、しっかり儲けている。そして、一見、成熟しきったかに見えるベビー用品、プロパンガスといった分野ですら、新たな経営のやり方、ビジネスモデル導入で意外なほどの高成長を続ける企業がいる。

日経ビジネスでは、こうした「今どき強い会社」の「なぜ」を分析して、その中から4つの経営のキーワードを抽出した。それは、かつての日本のモノ作りを支えた「重厚長大」ならぬ「柔・効・超・台」だ。

「柔」とは環境変化に迅速に対応できる柔軟さ、「効」は徹底して求める効率性、「超」は経営の常識や同業他社の動きを超越すること、そして「台」は技術やシステム、財務体質といった会社の土台がしっかりしていることだ。この4点が、どんな業界でも利益と成長の源泉になっている。当たり前に見えるかもしれない。しかし、当たり前のことができない企業、経営者の何と多いことか。

総選挙が終わり、次は民間の出番だ。「柔・効・超・台」の実践で、1つでも多くの強い企業が生まれることが、日本の構造改革を本物にする。

（村上 富美、西頭 恒明、佐久間 庄一、川上 慎市郎）

（CG構成：タカハシ カズエ、写真：アトラス・フォト・バンク）